

不撓不屈

～新たなる一步～

【所信】

はじめに

戦後復興から高度経済成長期に入った1967年の日本は「いざなぎ景気」を迎え、翌年にはGNP世界第2位の成長率を遂げるなど好景気のピークを迎えようとしていた。国民の誰もが夢や希望を持って未来を語り「暮らしの幸せ」を実感することが出来た時代、わが町の10年先の生活を…、20年後のまちづくりを…「民間人として語る」ことに情熱を持った55人の青年達は、全国363番目の青年会議所の創立に向けて躍動し、まちの未来について「夢を語る」時代から「夢を実現する」次代へと変貌させた。全てのJAYCEEがひたすらに信じ、ひたむきに行動を起こしてきた創始の志は、我々の時代へ、現代のJAYCEEへと託されている。

都市部に起きている事案は地方でも瞬時にして情報が掴めるという超高速情報化社会の今、我々を取り巻く時代とJC活動をどう結び付けるのかを協議し、その答えを模索しながら意見を重ねて作り上げた「創立50周年の提言」の実行は急務であります。昨年の50周年式典では、お世話になった各方面の関係各位に対して感謝を申し上げ、先輩諸氏の功績と紡いで来た歴史に敬意を表し、これから歩む仲間とともに武雄を愛する心、仲間を信じる心、未来を創る心を継承していくことを誓いました。我々には確固たる歴史があり、ノウハウがあり、人材があります。これからの10年、そしてその先の未来への道標となる50周年提言を携え、積極果敢に地域社会の発展のため、人へ、まちへ遠慮せずに確かな歩みを進めようではありませんか。

新たなる一步

武雄青年会議所は今日に至るまでの半世紀、それぞれの時代背景に即して活動してきたわけですが、バブルが弾けた後の経済疲弊は長く、出生率の低下による少子高齢化は加速し、グローバル化する生活環境、未成年者による犯罪増加、情報社会特有の人的差別やいじめなど混沌とした社会生活に直面しています。一人では解決できない大きな問題ばかりですが、僕には「始める勇気」があります。

JAYCEE としてメンバー一人ひとりが市民の先頭で旗を振ることを心掛けながら、意識の変革を訴え続けていくこと。そのために小さな対話を繰り返し実行していく必要があると考えています。時代に対応した運動を展開するために、多くの方々と会話を交わし、人の繋がりを人財として人脈化し、小さな話題でも情報を共有し事案に繋げていく。

創立50周年のテーマ「変革～明日への歩み～」では、未来に向け武雄青年会議所の進むべき方向性が示され、新しい時代の創始の精神を行動へと移す実行力と、時代の新しい局面を判断し切り拓く決断力を求められました。いつの時代も変革は青年が担い手です。明治維新を成し遂げた青年たち。戦後の混乱期に新日本の再建に立ち上がった日本青年会議所。そして地域社会の更新に新しい風を取り込もうと設立された武雄青年会議所。そこには変革への揺るがぬ意志と強い行動力があったからこそ、時代を動かしてきたのではないのでしょうか。「JC しかない時代」から「JC もある時代」になったと言われるように、いろいろな価値観を持った団体が社会活動を共有しています。こうした団体と相互関係をさらに深く広め、時代の変化や先取りの情報を共有しながら「武雄は一つ」を目標として新たな時代の出発点を作りたい。

～先が見えない混沌とした現代社会に向かって未来を描く～

これを基本テーマとしたビジョンを掲げ、不撓不屈の精神で仲間と共に武雄青年会議所の新たな一歩を踏み出したいと思います。

むすびに

私は入会后、いろいろな事業に挑戦する機会を与えて頂きました。事業を完結するには自分一人ではどうすることもできない壁や困難に心が折れそうになることもありました。そこには挑まなければ見えなかつたろうと思えるものが幾つもありました。こうした時の気持ちを理解し解放してくれたのは仲間でした。同じ志を持って目的に向かい、積極果敢に困難に立ち向かう。共有する苦しみや喜びにかけがえのない強い絆が生まれるのは想像に難くないと思います。残念ながら活動に参加できないメンバーもいます。理由はそれぞれにあると思いますが、どんな理由であれ自分から動き出さなければ、自分を取り巻く環境は何ひとつ変わることはありません。

いつの時も「始める勇氣」は一步目のきっかけが無いからではないのでしょうか。青年会議所では純粋に「人」を実感できます。暮らしの幸せを実感できた時代から、人との幸せを共有する時代へ、薄弱な人間関係になってきた現代だからこそ一生の人財が生まれ20才以上の年齢差でも友人としてお付き合い頂けるのも青年会議所の大きな魅力です。次世代へいいまちを…いい仲間を残すために、貴方の「始める勇氣」は先輩を含めた JAYCEE 全員が待っています。僕たちには「始める勇氣」があるはずで